

コミュニティバスの再編スケジュール等について

<目次>

- I 令和5年度を振り返って・・・P2～
- II 新公共交通網運行計画案作成に向けて・・・P6～
- III 関連する取組について・・・P9～
- IV 令和6年度のスケジュール・・・別紙

① バス停までが遠い地区に住む交通弱者への対応、コミュニティバスとの役割分担・連携策

【対策例】

- デマンド交通による面的対応（乗合輸送になるため一定のまとまった需要が必要）※実験運行実施中
- 乗用タクシーの活用（主に利用が少ない時間帯（午後）の活用につながる利用助成等）
- NPOやボランティア等による輸送（生活支援体制整備事業との連携）

② 文理大移転後を見据えた新たな需要（利用者）の開拓、収入確保による過度な財政負担増の抑制

【対策例】

- 福祉施策等との連携による利用促進（フレイル予防や免許返納等と絡めた「楽しめる利用促進活動」）
- 沿線地域と連携した利用目標の設定、持続性を高めるための必要に応じた地域負担（運賃見直し等）
- 沿線関係者（商業施設等）からのスポンサー料獲得
- ランニングコストを含めて過度な財政負担を生じない範囲での利用環境向上策（瀬戸内国際芸術祭に向けたキャッシュレス化等）

③ 過度なマイカー利用による環境負荷の軽減（CO2排出量の抑制）

【対策例】

- 学校や事業所（市役所を含む）等における過度なマイカー利用抑制を目的としたモビリティ・マネジメントの実施

④ その他

【対策例】

- 民間公共交通（路線バス・タクシー・鉄道）との役割分担
- 行政による交通弱者等への公共交通利用助成（公共交通事業者の存続支援を兼ねた取組）

I - (2) 令和5年度各路線の概要 (デマンドタクシー含む)

路線番号	路線名	運行時間 (12月4日現在)	使用車両	車両収入	R5年度 乗降者数 (うち文理)	主な特徴
①	志度・造田・多和線	・始発6:48 ・終着18:26	中型バス	・観光協会ラッピング ・車内広告設置	18,426人	・長尾中生徒 ・就労支援施設 ・デマンドバス区域有
②	志度・鴨部・小田線	・始発7:55 ・終着11:48	ジャンボ タクシー	・車内広告設置	10,262人 (1,463人)	・文理大関係者
③	志度・鴨部・寒川循環線	・始発7:40 ・終着18:15	小型バス	・オレンジタウン ラッピング ・車内広告設置	44,062人 (16,727人)	・文理大関係者
④	津田・大川・寒川線	・始発7:05 ・終着18:53	小型バス	・こくみん共済coop ラッピング ・車内広告設置	8,814人	・津田⇄長尾
⑤	小田・津田・鶴羽線	・始発7:25 ・終着16:34	ジャンボ タクシー	・車内広告設置	7,082人	・就労支援施設
⑥	志度・鴨庄・興津線	・始発6:45 ・終着12:56	ジャンボ タクシー	・車内広告設置	10,988人 (2,468人)	・文理大関係者
⑦	寒川・津田・志度線	・始発7:45 ・終着18:30	中型バス	・徳島文理大学 ラッピング ・窓枠広告2件 ・車内広告設置	49,660人 (17,949人)	・文理大関係者 ・津田高校生 ・就労支援施設
12/4 ~	デマンドタクシー(区域運行) ※路線②と⑥の運行区域内 ※道路運送法に基づく実験	・13:00~ 17:00(最長)	ジャンボ タクシー	・車内広告設置	1,830人 (1,252人)	・メイン:一般 ・セカンド:文理大関係者

- 令和5年度乗降者数 = 151,124人 うち文理大学関係者 = 39,859人 (約26.3%)
- 令和5年度利用者数 = **75,562人** (文理大学関係者 = 19,930人、文理大関係者以外 = 55,632人)
- 【参考】令和4年度利用者数 = **71,242人** (文理大学関係者 = 16,935人 (約23.8%) 文理大関係者以外 = 54,307人)

前年度比 +4,320人
 文理関係 +2,995人
 文理以外 +1,325人

I 一 (3) 令和5年度年間収支実績

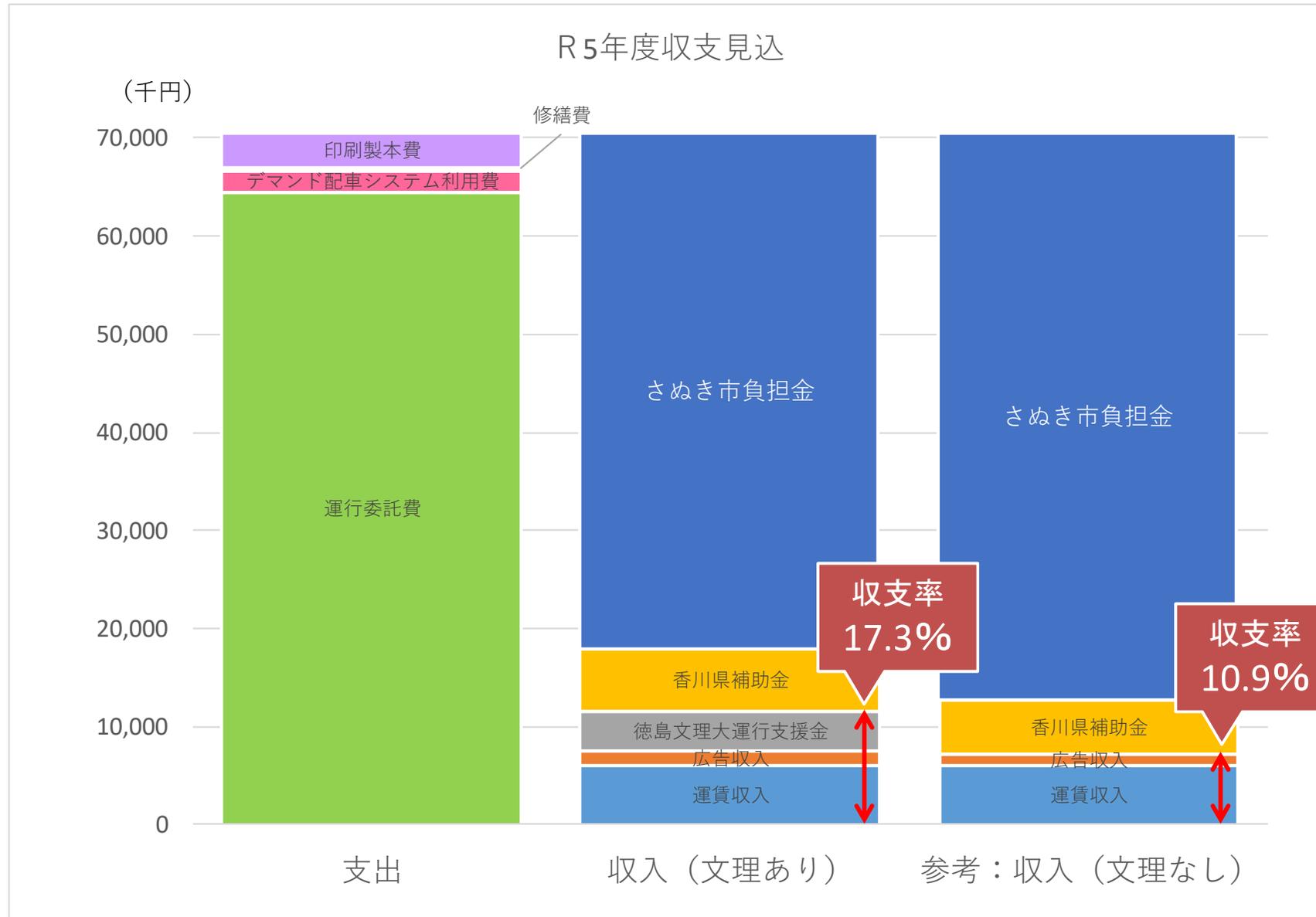
収入 A		運行費用 B ※運行直接経費のみ		収支 A-B	収支率 A/B × 100	香川県 運行補助金 C	一般財源負担額 B - (A+C)
運賃	3,668	運行委託料	64,390	△55,581 千円	17.3%	6,455千円	49,126千円
回数乗車券 販売	2,462	修繕費 (標柱、標識)	283				
ラッピング	1,200	印刷製本費 (回数券・時刻表)	354				
窓枠広告	20	配車システム 利用料	2,204				
広告 車内設置	300						
文理大 運行支援金	4,000						
計 (A)	11,650 千円	計 (B)	67,231 千円				
【参考】令和4年度実績							
計 (A)	11,098 千円	計 (B)	65,033 千円	△53,935 千円	17.1%	6,032千円	47,903千円

※令和6年3月16日ダイヤ改正（①志度造田多和線、④津田大川寒川線のみ、JR高徳線ダイヤ改正の影響緩和）

※配車システム利用料 = 初期設定費 + システム&コールセンター利用料（12～3月の4か月分）

※令和5年度利用者数（乗車人数）：75,562人（文理大関係者含む）

文理大運行支援金400万円とラッピング30万円（1台分）の有無で比較



◆今年度のコミュニティバス再編作業時に、特に意識すること

●現在利用者の維持・利便性向上（利用回数増加）を意識する（新規需要意向も整理）。

→「あれば良い」 < 「無いと困る」

●午前中のダイヤは「優先度」を意識する。

-
- 優先度①：通学・通勤利用者
 - 優先度②：通院（さめき市民病院、津田診療所等）
 - 優先度③：買物

●「持続可能性」を意識する。

→乗務員に過度な負担を強くない。

→運行収支率の維持（目標）

●市内の「公共交通「網」」を維持するための役割分担を意識する。

→鉄道・路線バス・タクシーとの共存

→福祉部局との連携（自家用車が無くても（使わなくても）、健康に・楽しく暮らせるまちづくり）

◆ターゲット別実施目的・調査方法

- メインターゲット:通勤・通学以外の利用者⇒利用意向や利用回数を増やすためのニーズ等を把握する。
- セカンドターゲット:コミバス利用を意識している未利用者⇒利用するための課題等を把握する。
- コミバスの運行管理者と乗務員⇒運行特徴と改善内容、今後の市内公共交通網のあり方を把握する。

	利用者向け		市内公共交通事業者向け
	コミバス利用者実態調査	街頭調査	ヒアリング調査
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ◆日常的に通院や買物でコミュニティバスを利用している方 ◆3年程度以内に運転免許証の返納を予定している高齢者等 ※免許返納を予定していなくても利用が見込まれる方含む 		<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニティバス運行管理者 ◆コミュニティバス乗務員
調査方法	◆コミバス乗込調査	<ul style="list-style-type: none"> ◆街頭ヒアリング調査 ※市内スーパー、病院入口を想定 ◆待合席等での対面調査 ◆回収箱設置によるアンケート調査 ※店舗等と相談して決定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事前に調査票を配布する(乗務員・運行管理者) ◆休憩時間を活用した個別ヒアリング(乗務員) ※担当乗務員が複数人いる場合は、代表者にヒアリングする ◆意見交換会形式でのヒアリング(運行管理者) ※関連する事業者が一堂に会することで、同じ立場で話ができる環境をつくる
設問項目(案)	<ul style="list-style-type: none"> ◆公共交通の日頃の利用目的、乗降バス停、利用便 ◆今後の利用意向 ◆利用しない理由 ◆改善希望や使いたくなる条件 		<ul style="list-style-type: none"> ◆コミバス利用者の特徴 ※常連ユーザーが利用する路線・便 ◆コミバス運行中に感じる解決すべき課題 ◆公共交通利用者の意見 ※コミバス、タクシーの利用者に車内で言われること ◆デマンドタクシーへの意見 ※改善案等 ◆市内公共交通網再編方法 ※関係事業者としての意見 など

※調査方法は、店舗や事業所と協議して確定する。

【経緯と内容】

- 生活支援体制整備事業に取り組む中で、「移動サービス」（道路運送法に関係しない、いわゆるボランティア輸送）」に興味を持つ市民グループが複数存在（温度差あり）

市の意向・考え

福祉部局

（長寿介護課、社会福祉協議会）

- 各地区での市民同士の支え合い活動の1つとして 好意的に受け止めているが、安全性への不安や、民業圧迫による市内公共交通への悪影響は避けたい。

都市整備課・福祉部局

- 持続的な公共交通網を維持するためには、地域の**自主性**を尊重しつつも事業者の意見も踏まえ、移動サービスの実施手順等を示すことが必要。
- 「やまびこの風」を**市民主体型モデル**として、運行計画素案の検討時から意見交換を重ね、必要に応じて、他事業活用のアイデアを提案するなど、市内公共交通網の新しい輸送モードとして検討を深めたい。

南川
やまびこの風

運行計画案を
現在精査中

（これまでの取組）

- 地区住民アンケート
- 公共交通に慣れるためのお出かけイベントの開催
- 市内タクシー事業者との意見交換
- 先進グループ視察（高松市一宮地区等）

複数年度にわたって
研究を重ねてきた

地区内の状況が刻々と変化しているため、慎重さも必要だがまずは取り組んでみよう
と動き出しに向けて検討中。

- ★ 運行計画や運行に至る過程などをマニュアルとして整理
- ★ 一定の成果が出れば、パンフレットとして取りまとめる

【経緯と内容】

- 本市では今後、県立高校3校の閉校・統合高校の開校による高校生の通学需要の変化や、人口減少・高齢化による利用者変容が予想されている。
- 公共交通を維持するためには、今後の利用者（新たな後期高齢者等）が煩わしく感じない「乗りやすい公共交通」を目指すことも重要。この場合、他分野との共創活動や、IT技術の活用が必要と考えるが、一朝一夕で取り組めるものではない。
- まちの変化を踏まえた移動手段の充実を目指すためにも、複数年にわたる作業イメージ等の見える化が必要ではないか。



今年度の再編作業において、様々なデータや意見が収集できる。それらを活用して、令和7年度以降の検討作業の参考資料として、令和14年度程度までを視野に、各年度で必要な取組（協議）内容等を「ロードマップ案」として整理する。

当面のスケジュール案

（R5年度第3回さぬき市地域公共交通会議 資料3より抜粋）

■ 令和5年度

- ・ デマンド実験運行の中間評価（今回）

■ 令和6年度

- ・ デマンド実験運行の評価（8月頃）
- ・ 令和7年度からのコミュニティバス等のあり方検討
- ・ 路線再編に係る交通事業者との協議
- ・ 地域公共交通計画中間評価

■ 令和7年度

- ・ 令和6年度の検討結果に基づく運行（4月1日～）
※徳島文理大学香川キャンパス高松市移転：4月1日
- ・ 令和6年度の検討結果に基づく利用促進活動始動

■ それ以降

- ・ 継続的な利用促進活動
- ・ 地域公共交通計画の見直し（令和8年度）
※現計画の最終年度：令和8年度
- ・ 令和12年度からのコミュニティバス等のあり方検討開始（令和10年度）
※造田地区における新県立高校（市内3校統合）の開校：令和12年4月予定